

7. 点検評価と課題

2017年度は Hrvoje Petek 教授（ピッツバーグ大学）と中嶋 敦教授（慶應義塾大学）を研究顧問としてお招きし、所全体の研究評価，研究体制についての提言をいただいた。

2017年11月にはマックスプランク研究所（石炭科学研究所）の Benjamin List 教授より生命・錯体分子科学研究領域を中心にヒアリングが実施され，グループの研究内容の評価をいただいた。2018年2月にはヴェルツブルク大学の Eberhard Umbach 名誉教授により，光分子科学研究領域，UVSOR 施設，および本年度設置されたメゾスコピック計測研究センターを中心にヒアリングが実施され，それぞれの研究内容の評価および活動の評価をいただいた。

昨年度2月に開催された運営会議の際に，4つの研究領域の研究内容および研究方針について所外委員を務める関係研究者からのアドバイスを仰いだ。そのレポートについてもここに掲載させていただいた。

（川合眞紀）